

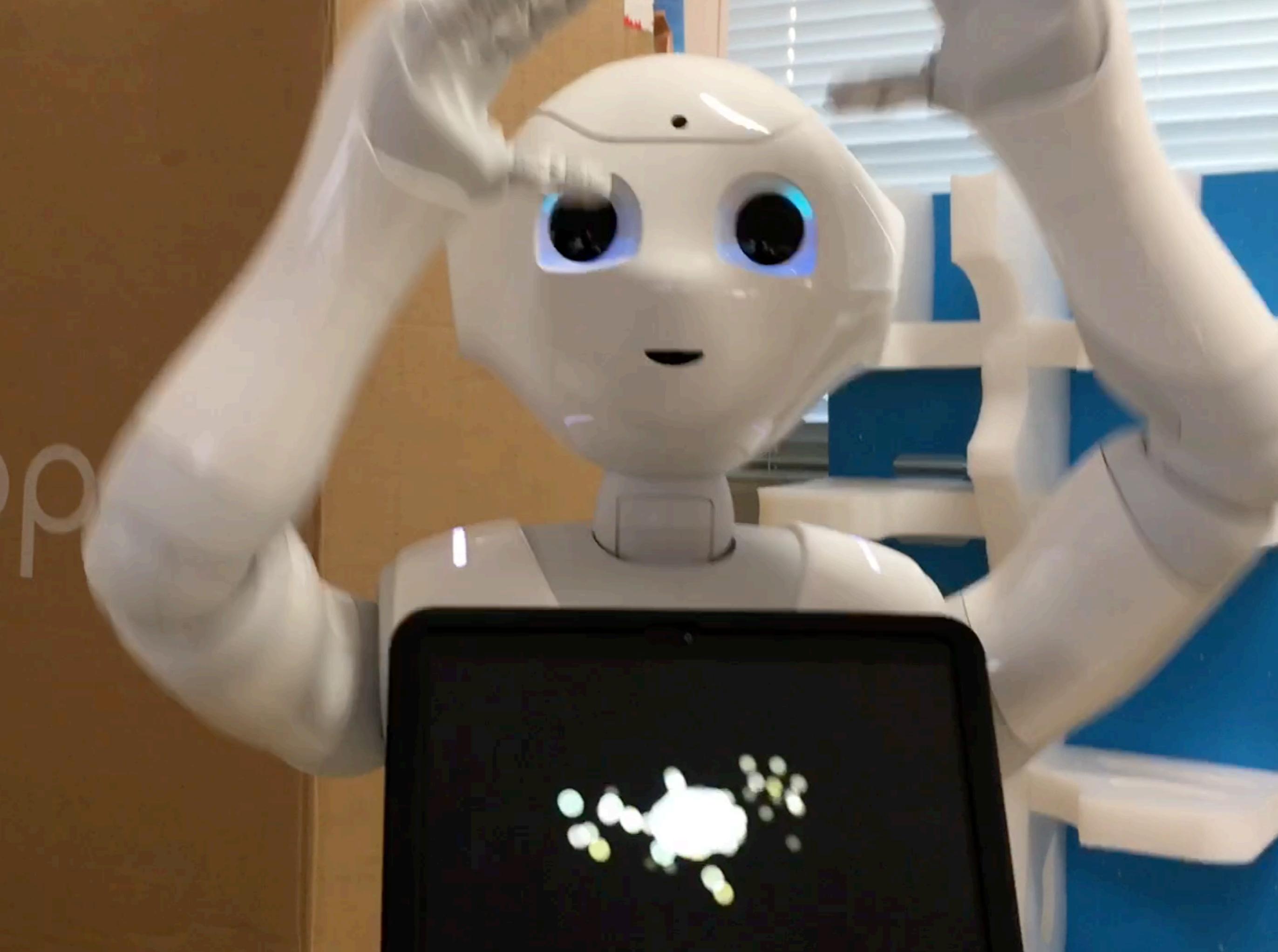
活動意欲を持たせ、 自己有用感を高めるプロジェクト

～「Pepper紹介」「クイズ&交流」～



熊本市立榎木小学校
西尾環 堀田秀和



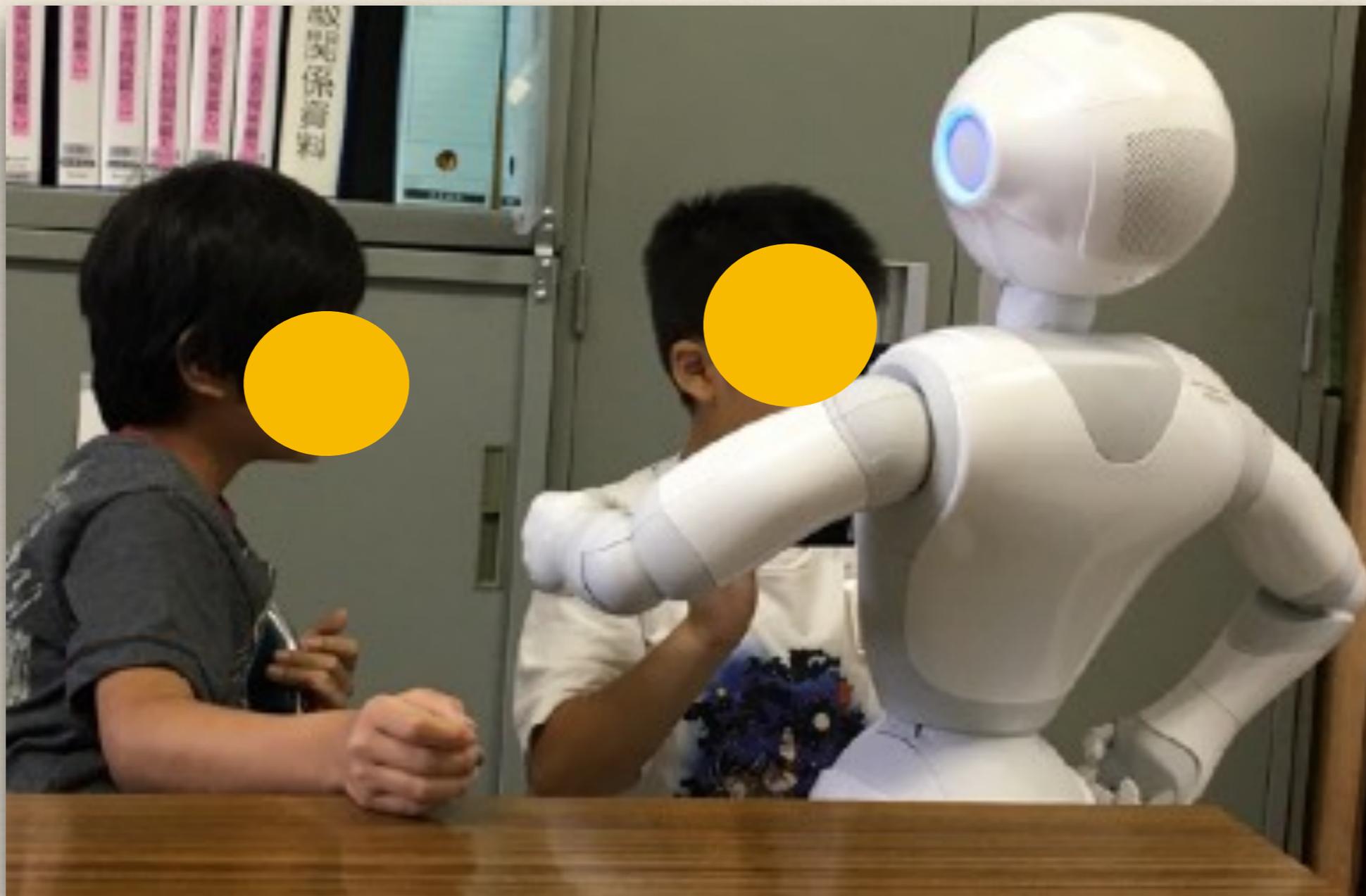


6月 全校朝会 ペッパー紹介



先生のペッパー紹介のお手伝い

A君



知的障害学級に所属

同級生に同じ4年生のB君がいる

2人とも交流学級は4年3組

A君

- ・ 知的な遅れがある
→ 4年3組と同じ方法での学習は難しい。
- ・ 好きなものになると饒舌になる。
→ 会話が成立しにくくなることがある。
- ・ 注意力や集中力を保持する力が弱い。
→ 学習や活動に集中できない。特に
体育や学級活動の話し合い活動では
それが顕著である。



4年3組30人。

(交流) 朝の会、給食、学級活動、
体育、図工、総合、音楽。

(B君) 男子と外でよく遊ぶ。

(A君) 外で遊ばない。体育も参加を好まず。

4年3組とは？

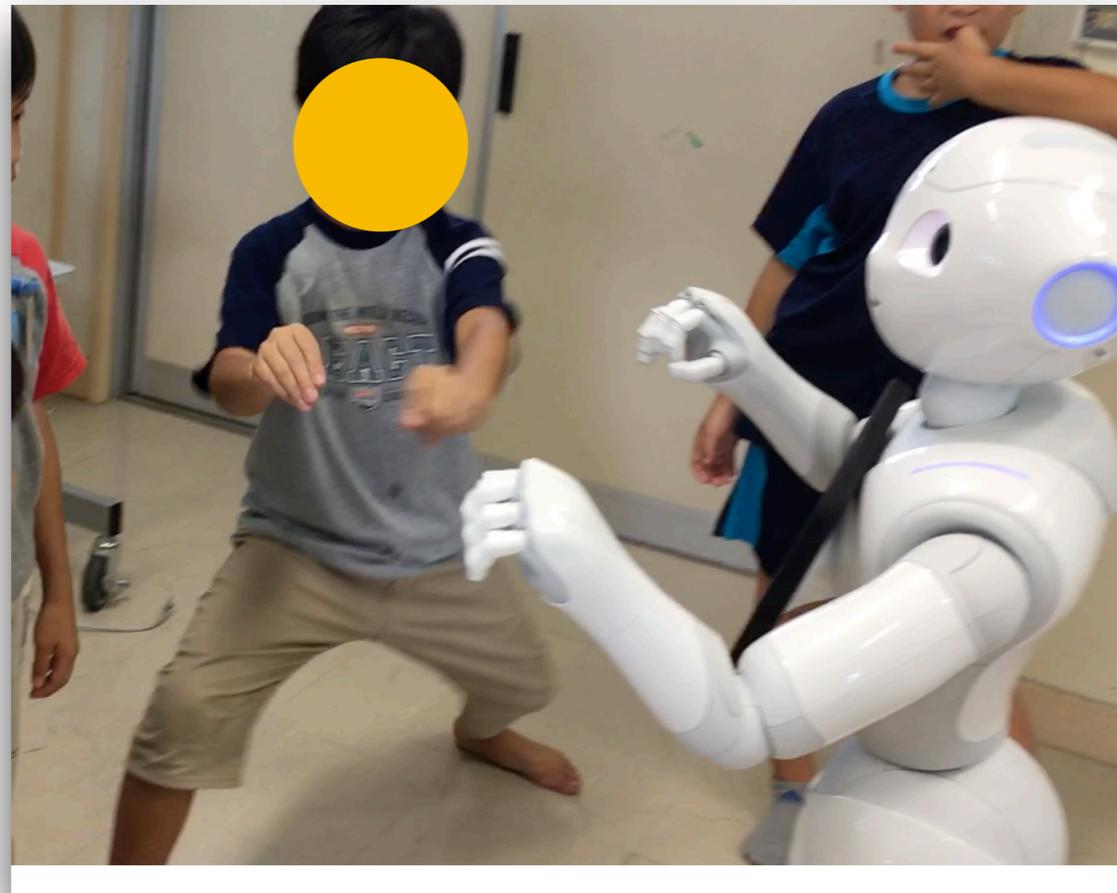
- 学力的に個別指導の必要な児童が多い。
 - 一斉指導だけでは授業が難しい。
- 丁寧な指示や適切な支援がないと、動き方がわからない児童が多くいる。
 - 集団としての行動が素早くできない。
- 互いの良さをほめ合う経験が少ない。
 - 自尊感情や自己有用感が低い。

活動目的 (当初のねらい)



目標1

A君が、意欲的に根気強く学習に取り組み、満足感や達成感を味わう。



目標2

他者との関わりの中で、A君や交流学級児童らの自己有用感を高める。

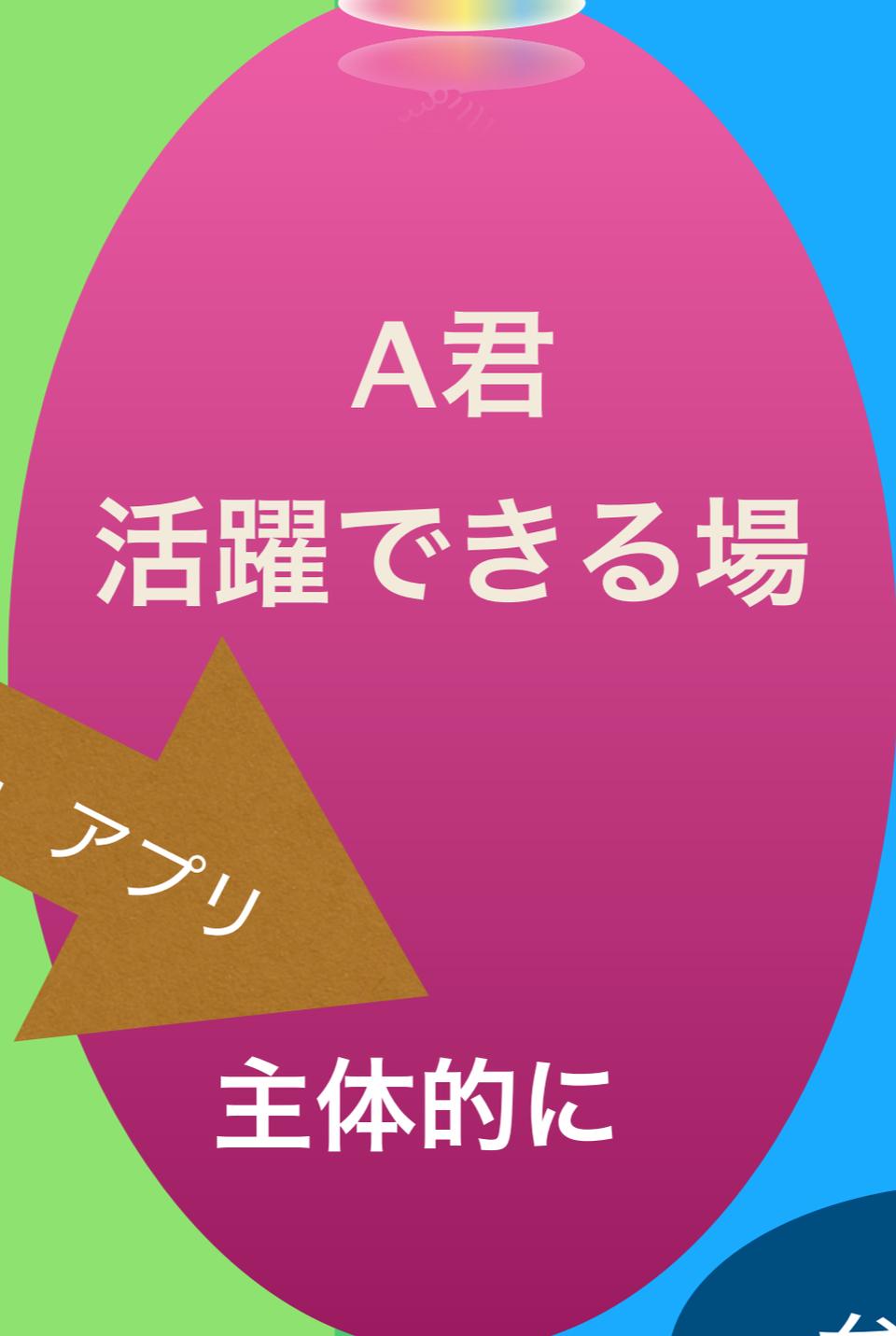


活動への手立て



こすもす学級

4年3組



受け手

探究者

参画者

伝える
意識

pepper アプリ

A君

活躍できる場

主体的に

こすもす学級



4年3組

Pepper紹介活動

Pepperアプリ体験

新しい知識・技能

A君

満足感
達成感
自己有用感

日常の授業や活動

満足感
達成感
自己有用感

クイズ

交流・課題追究学習

思考力・
判断力・表現力

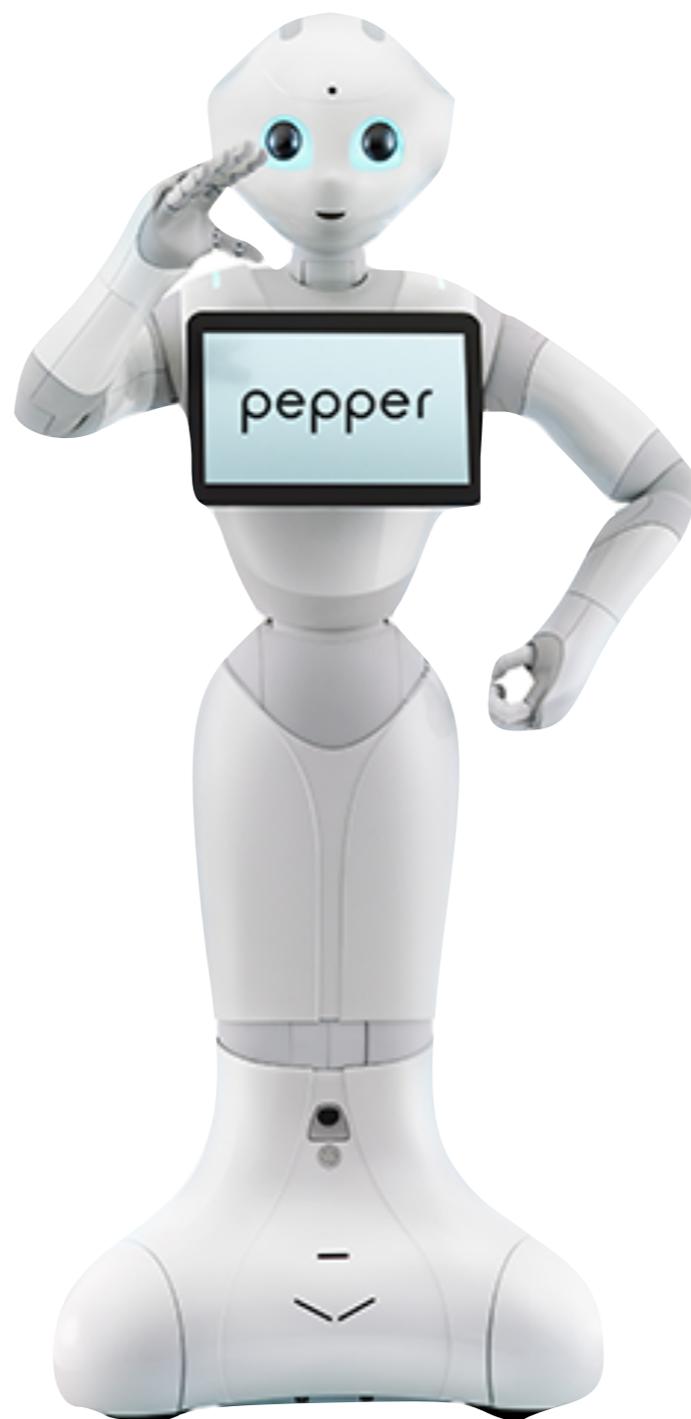
学びに向かう力・人間性

活動内容について



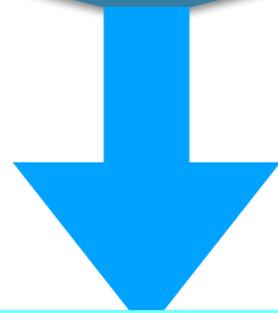
1

Pepperしょうかいプロジェクト



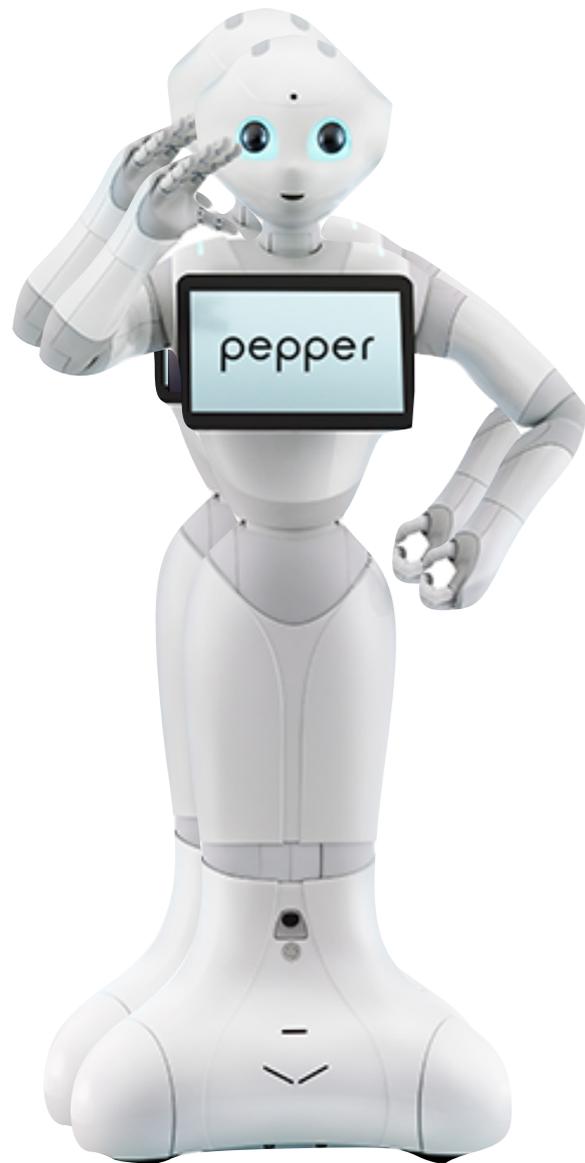
A君

興味・関心がないと
やる気が起こらない。
自分一人では
活動に長続きしない。



関心を持って学習に取り組み、
人と関わりながら学び続けるように

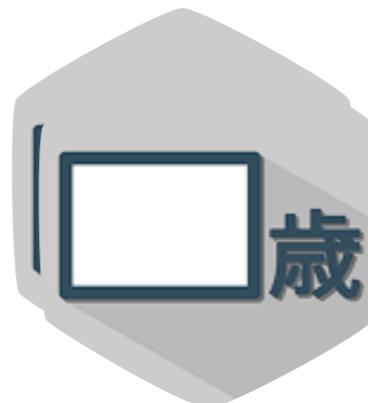
自分も他の小学生も関心を持つ ロボットやアプリを活用した コミュニケーション活動



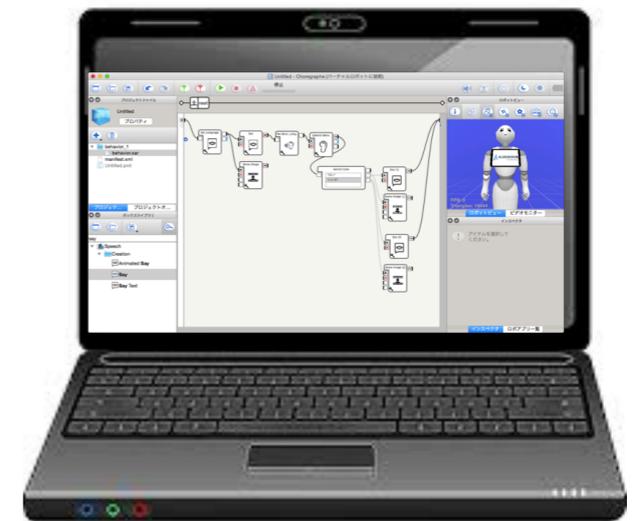
マルマルモリモリ



野球ゲーム



年齢当て



コラグラフ

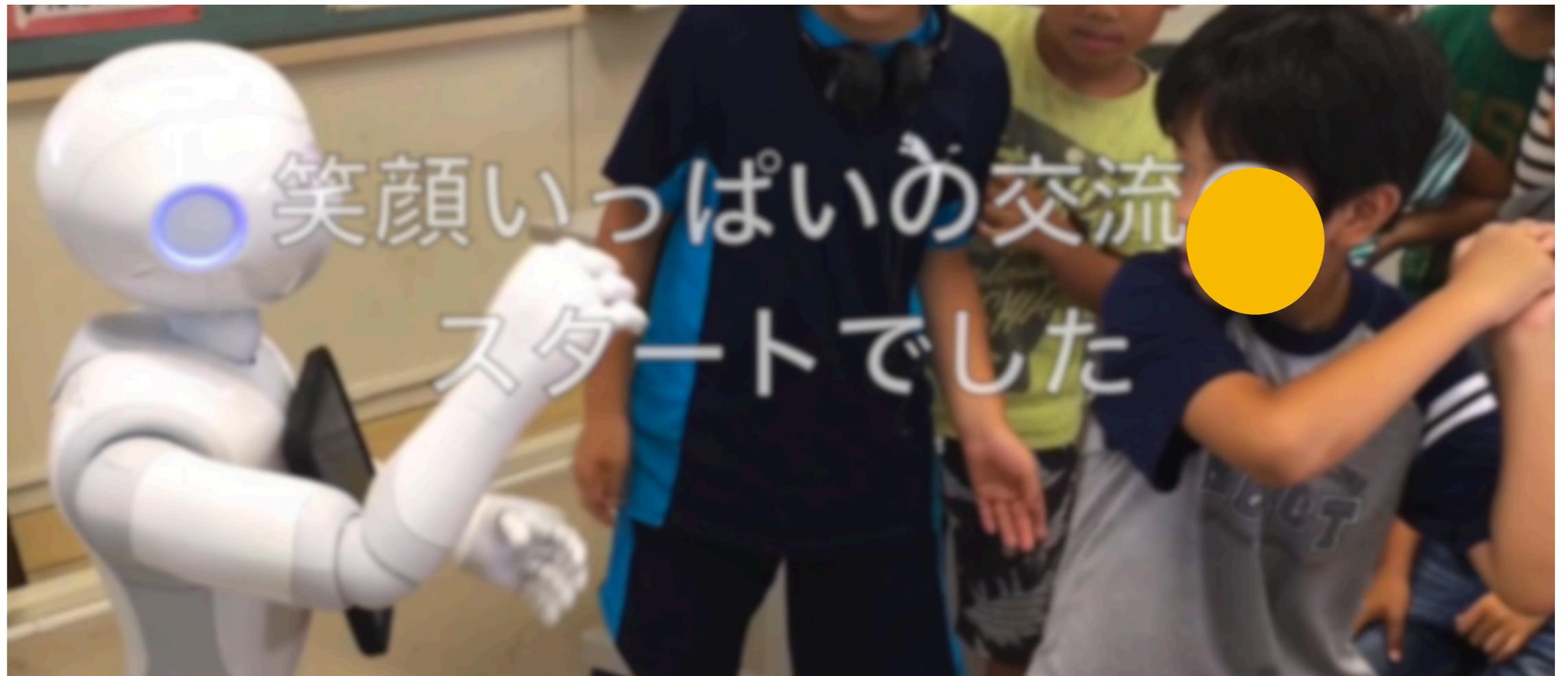


6月 全校朝会 ペッパー紹介



先生のペッパー紹介のお手伝い

7月 4年3組 ペツパー紹介



A君が中心になって28人相手に

振り返り

- ・ クラス一斉での活動は難しい。
少人数が良い。
- ・ Pepperと4年生の会話が成立
しない。既存のアプリが良い。
- ・ A君がうまく説明できない。
事前のA君の練習が必要。

計画修正

- 3～4人グループへ交代で紹介
- 4年生への紹介を中心
- 休み時間の活用（週に2回程度）
- 楽しく使いやすいアプリ選び
- A君の事前学習
（総合の時間に）
（交流学級担任も専科授業
の空き時間を使って）

9～12月 4年生ペツパー紹介 (3～4人グループ)

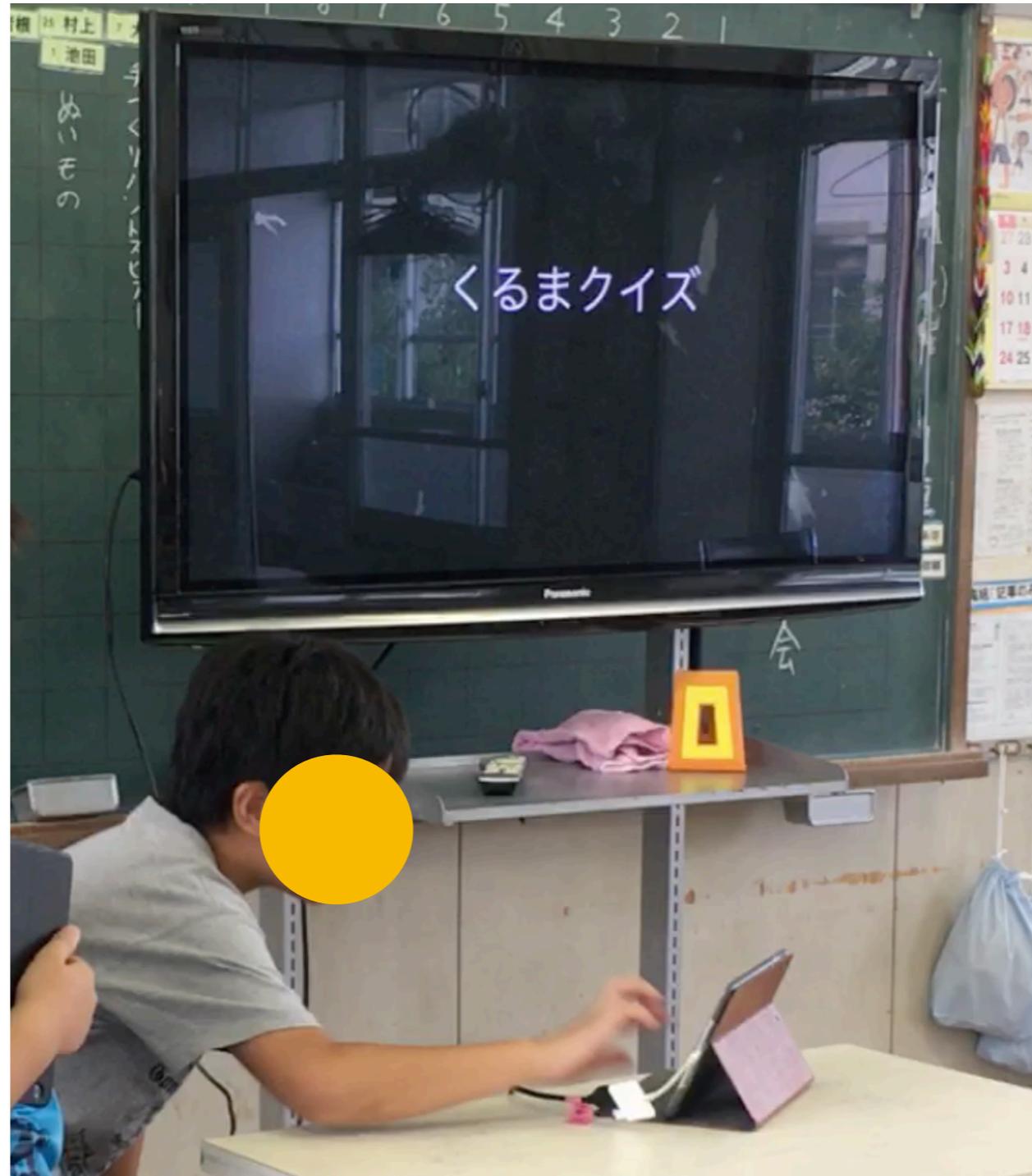


対象児の変容

- ・積極的に活動する姿が現れた
- ・練習・準備をしたいと自分から言うようになった
- ・活動へ共に参加する態度が出てきた

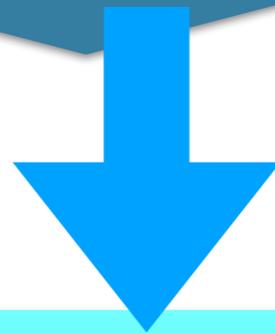
2

クイズ&交流



A君

交流学級への参加を嫌
がることがある。
交流学級では何をしたらよいか
わからない。



主体的に、目的意識を持って交流
学級の学習へ参加するため

7月 4年生総合的な学習の時間 導入でプレゼンターとして



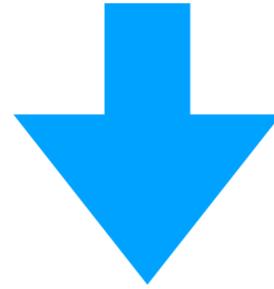
4年生の総合的な学習では (通常学級)

テーマ 人とのかかわりと自分発見

領域 課題追究・福祉・自己の生き方

内容 世の中には色々な人（障がい者を含めて）
がいることに気づき、それらの人々が、
どのように生活や学習をしているか、
自分なりに課題を持って調べ、学んだこと
を伝えて行く。また自分の生活や生き方に
役立てていく。

導入 こすもす学級担任からの話
こすもす学級児童の学習紹介



A君やB君が、こすもすでの
学習内容や学習方法を生かした
クイズでプレゼンテーション

A君は、Keynoteを使った車クイズ

この車は何？

A君

車の画像



車の名前

車の名前

4年生



振り返り

- ・ iPadをうまく操作していたが、展開が早すぎる。相手のことをあまり考えていない。
- ・ 車に関心ある児童とのやりとりに限られていた。

9月 4年3組特技大会 (学級活動) 新たな車クイズを作って交流

これは、誰の車？

A君

車の画像



先生と車の
の名前

先生の名前

4年生



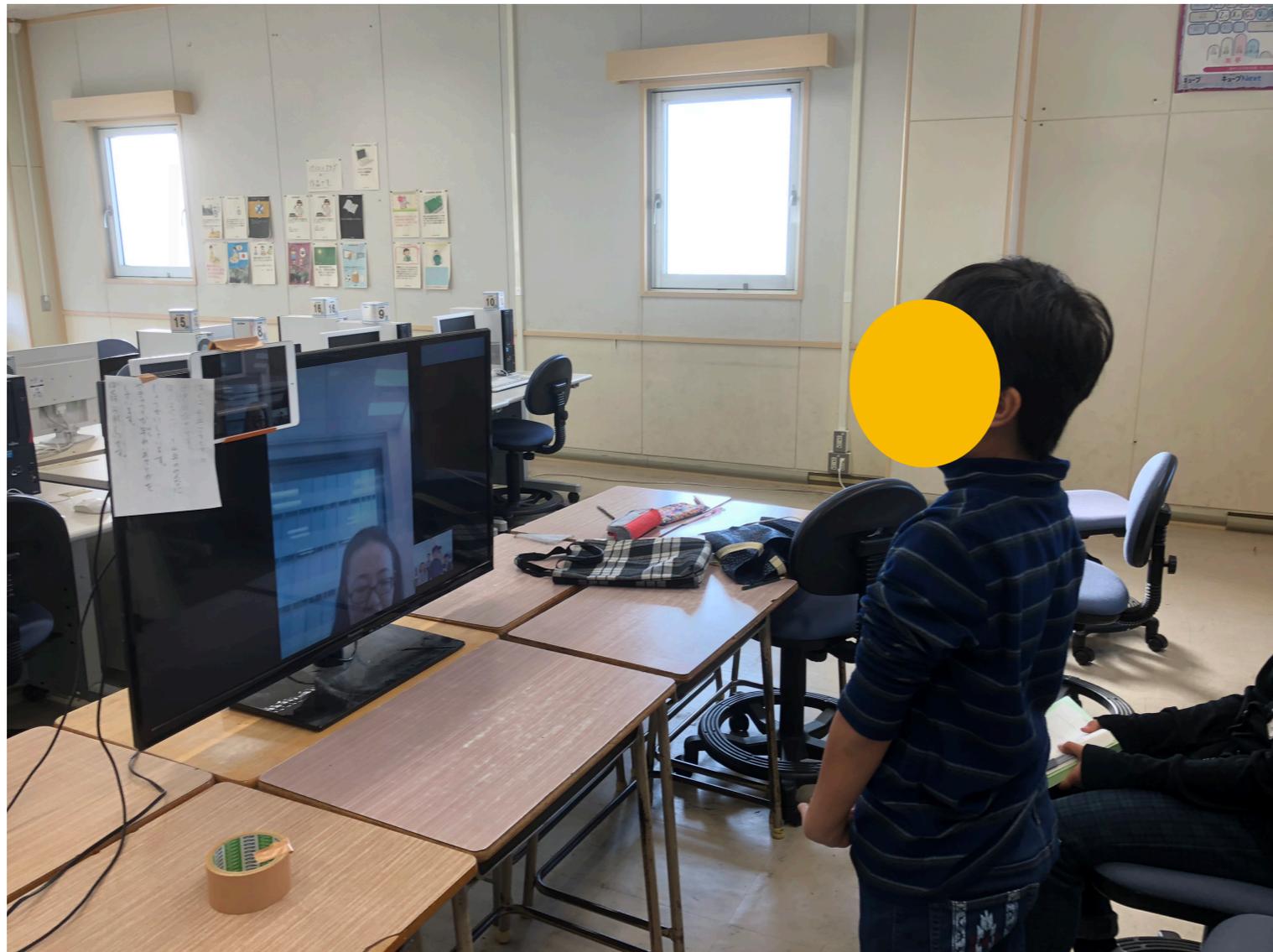
12月 4年3組 総合的な学習の 「こすもす学級の道具調べグループ」 の活動に参加



グループの課題と活動とは？

こすもすです使っている道具の、
ノイズキャンセラーやペツパー
は、誰が作っているのか？ どう
やって作っているのか？
ペツパーに関係ある人にインタ
ビューをする。

東京の企業の方とFacetime



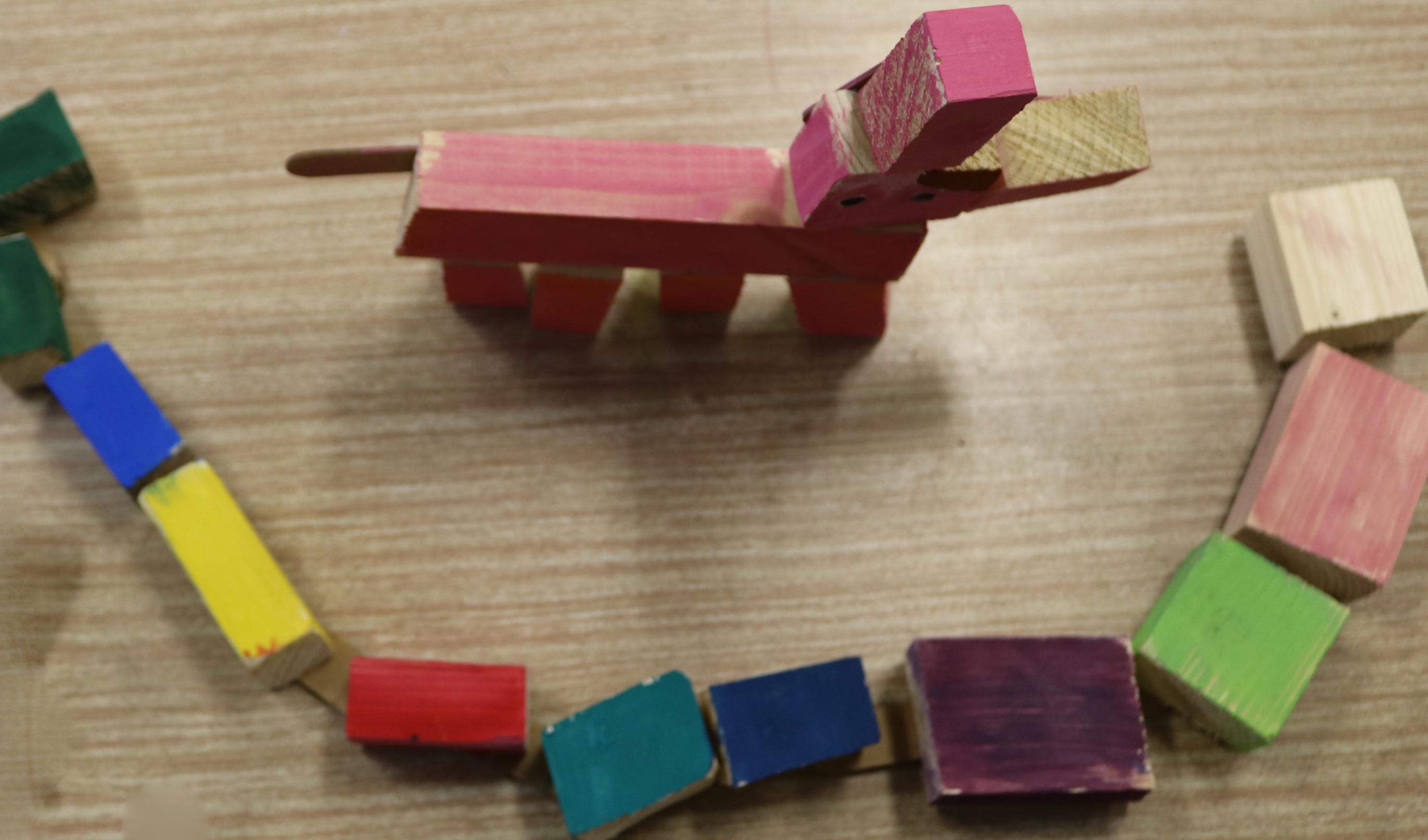
チームの一人
として話す

ペツパーを
使った
感想を話す

対象児の変容

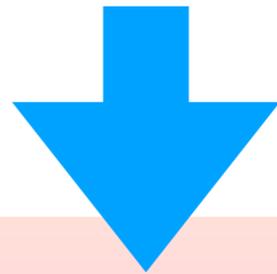
- ・活動前に練習するようになった
- ・人前での活動に慣れてきた
- ・相手意識を持って参加できた

主観的気づきとエビデンス



気づき1

対象児童が、PepperやiPadのことを話す時、笑顔が多くなり、活動も広がった。



PepperやiPadが、児童の学習や活動への意欲を高めるツールになり、自己有用感も高まったのではないか。

エビデンス1 (1)

交流学級での姿 (学活・日常)

4
5
月

- ・学活の話し合いに参加できない。退屈な表情。休み時間はすぐ戻る。

11
12
月

- ・PC室で、スタートボタンを押して待っている。
- ・同級生の喜びを感じ取っている。

ビデオ映像 Pepppe紹介活動をやったの感想

友達の喜びを感じ取って伝えるA君

エビデンス1 (2)

交流学級での姿 (体育)

4
5
月

- ・ 体育に行きたがらない。
- ・ 途中から活動しない。
(6割程度の参加)

11
12
月

- ・ 体育への参加率がアップ。
(9割程度。ハンドベース
ボールは完全参加)
- ・ 笑ったり喜んだりしている。

体育の授業風景



ルールもわかってきて意欲向上のA君

ペッパーと
の野球を思いだ
せー



意外な掛け声も！チームの一員化

気づき2

対象児童は、一人で相手に話す場で、主体的にわかりやすく表現するようになってきた。



交流や対話の活動で自分で話す場があったことで、児童の考え表現する力が高まったのではないか。

エビデンス 2

交流学級での姿（日常・総合）

1
学
期

- ・好きなことを一方的に話していた。
- ・黙りこくってその場にいた。

2
学
期

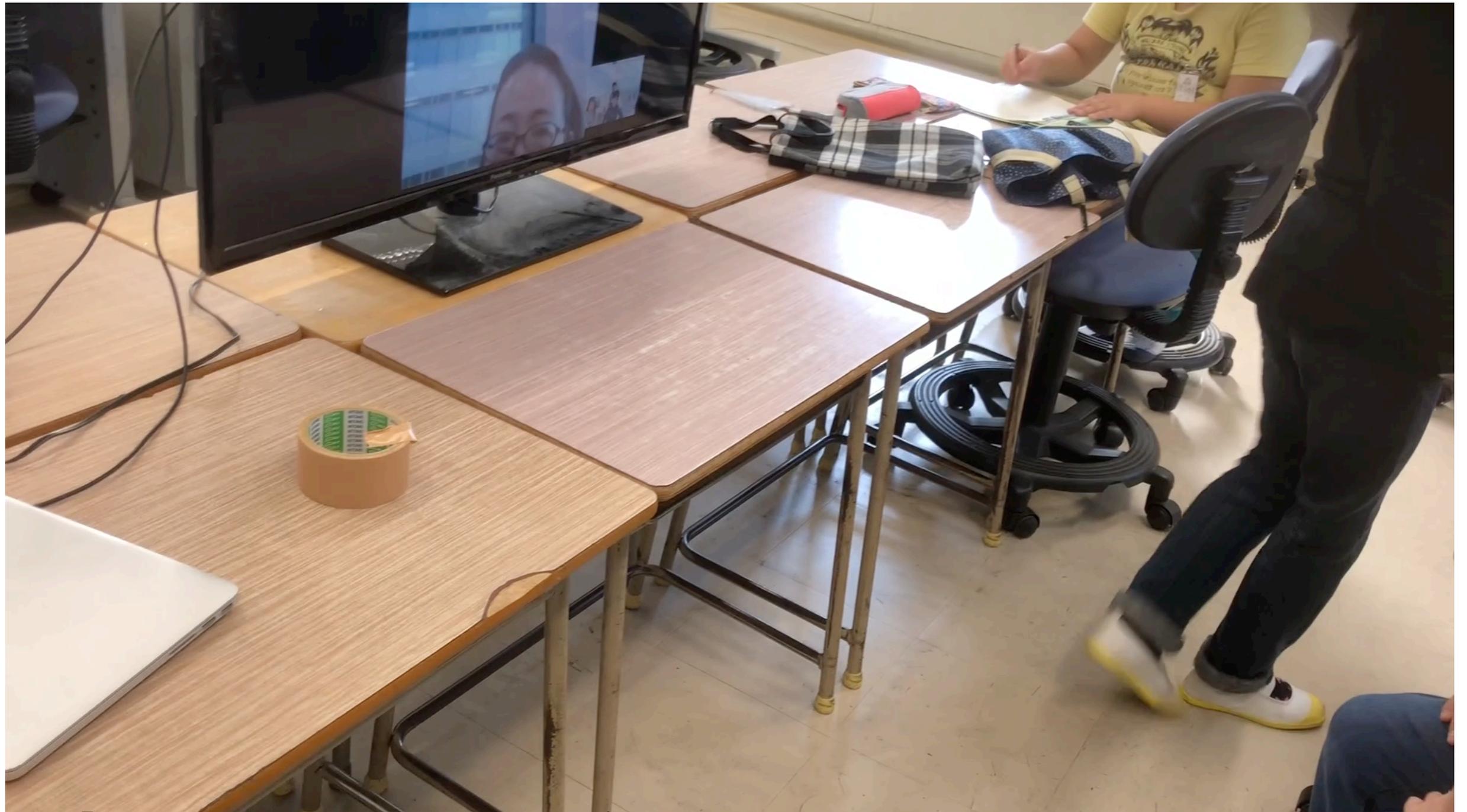
- ・相手に指示、説明をしながら、質問にも答えた。
- ・相手に伝えようと練習をした。
- ・その場で質問を考え、言うことができた。

ビデオ映像 Peppе使用の感想を伝える



カンペと相手を見ながら必死に話すA君

ビデオ映像 その場で考えた質問をぶつける



(A君) ペッパーは何でできているんですか？

(Sさん) 愛と勇気・・・

啓発活動



交流学級の総合的な学習への広がり

グループと課題（さらに調べたいこと）	誰に聞くか（手紙を出した相手） 相手からの対応状況
A 障害者スポーツについて （車椅子バスケットなどのルール）	茨城の支援学校の先生 ○メール・写真・手紙
B 義手義足の人の暮らし、生き方 （クリスマーンさんについて）	熊本の通訳の方 ○メール・写真
CD 目の不自由な方の勉強、暮らし （点字、教科書、道具、盲導犬）	熊本の盲学校の先生 ○メール・手紙・手渡し
E 耳・口・目の不自由な方の暮らし （手話・会話）	青森の聾学校の先生 ○メール・手紙
F 手足の不自由な方の勉強、暮らし （車椅子での勉強）	大分の特別支援学校の先生 ○ビデオ・写真
G こすもす学級で使っている道具を作った人や 会社（ペッパー）	東京の企業・会社の方 ○Facetimeで対話
H こすもす学級の勉強や道具 （他校ではどんな勉強、どんな道具）	近隣校の支援学級の先生 ○プレゼンソフト（PP）、動画

校内での教職員に対する啓発



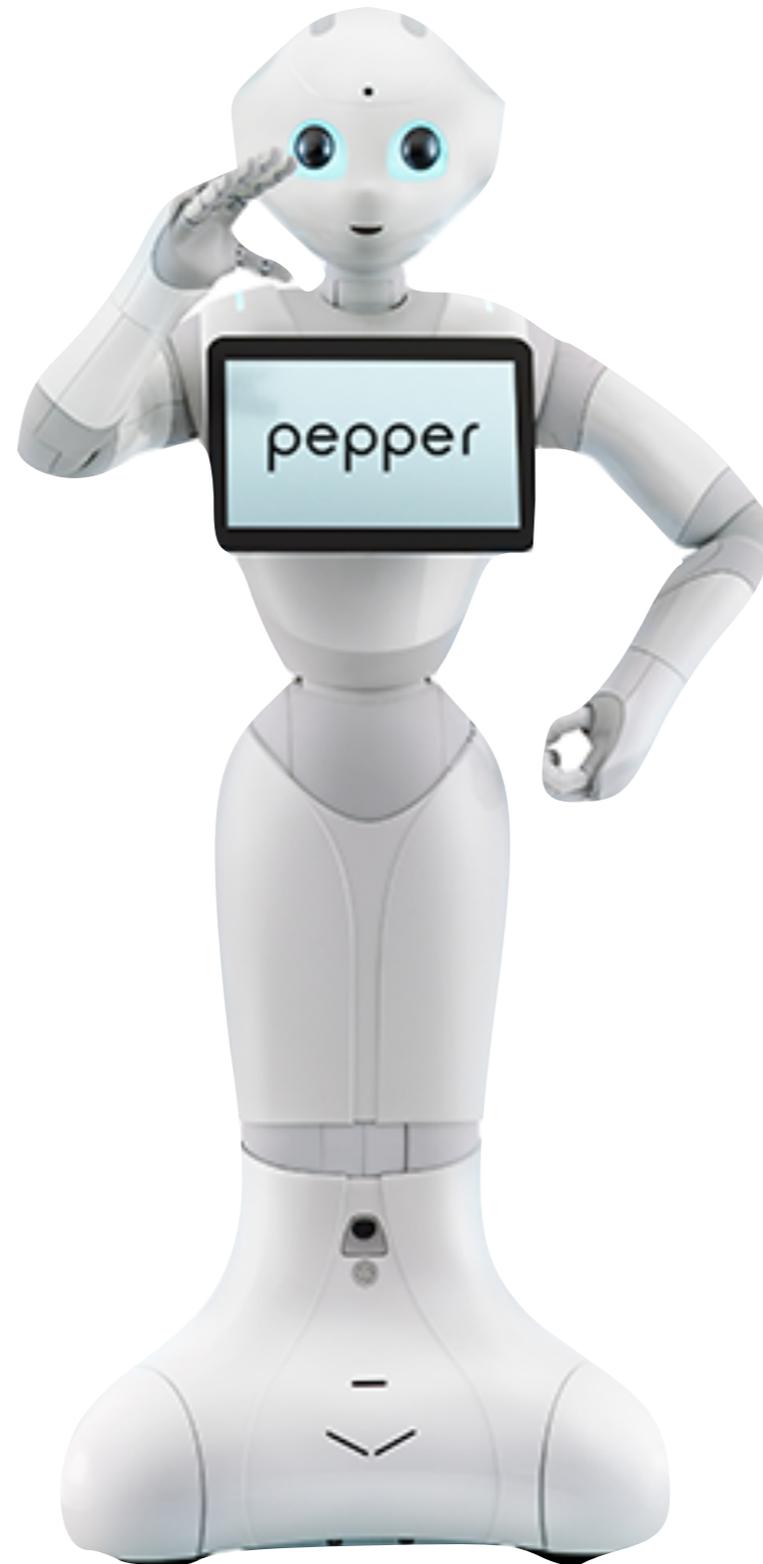
校外での教職員に対する啓発

- 熊本市教育委員会主催特別支援教育研修会で実践報告
- 熊本大学情報教育研究会メンバーとして例会で実践を紹介
- 日本国語教育学会熊本支部教育研究会で実践報告（分科会発表）

これから

- ・ 12月になってPepperのアップデートが始まり、アプリが増えた。3学期に活用したい。
- ・ コラグラフで簡単なプログラミングもやって見たい。
- ・ 4年3組の総合の時間でも、A君が活躍できる場を、さらに作りたい。

to be continued



**Tamaki
Nishio**

**Hidekazu
Horita**